

復興ありがとうホストタウン（第十二次）自治体について

令和元年 10 月 1 日

自治体 (相手国等)	受けた支援の概要	取り組もうとする事業の概要
<p>福島県 檜葉町・広野町・川俣町 (アルゼンチン)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災による地震及び津波により、大規模な損害が発生。同時に発災した福島第一原子力発電所の事故により、檜葉町・広野町では全町民が避難を余儀なくされるとともに、当地域の中心施設である「J ヴィレッジ」も事故収束の拠点として使用された。川俣町においても、一時は居住制限区域及び避難指示解除準備区域が設定され一部町民が避難を余儀なくされた。</li> <li>・アルゼンチン共和国からは、同国赤十字社を通じて多額の義援金が寄せられ、こうした支援のおかげで長引く避難生活を乗り切ることができ、帰還した町民の生活再建に役立てることができた。</li> <li>・サッカーアルゼンチン代表で、世界的に著名なメッシ選手が、親元を離れて東京などに避難する福島の子どもたちに、サイン入りユニホームをプレゼントしたり、記念撮影を行ってくれ、子どもたちを元気づけてくれた。</li> <li>・川俣町では、アルゼンチン共和国コルドバ州コスキン市で行われる世界最大規模のフォルクローレ音楽祭にちなんだ音楽祭が同町内で 1975 年から開催されており、2013 年にコスキン市の小学生から励ましの絵画 106 点をいただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルゼンチン共和国の選手団、大使、同国関係者等に復興した姿を見ていただく。</li> <li>・福島第一原子力発電所の事故から得た教訓を映像等を見てもらうことにより、しっかりと国際社会へ発信する。</li> <li>・選手に対し、地域住民の方々による呈茶や着物の着付け、地域の特産品を使った日本ならではの食事などを提供し、住民と食を通じた交流を図る。</li> <li>・選手と地元の子どもたちとの交流や相互の伝統文化、音楽交流(和太鼓やフォルクローレ)などを通じ、これまでの支援へ感謝の気持ちを伝え、継続した交流へ発展させていく。</li> <li>・地元の子どもたちが異文化に触れ、障がい者との関わりにより多様性を身につける機会とするため、J ヴィレッジを拠点として、アルゼンチンブラインドサッカーチームとの交流を目指す。</li> <li>・東京大会時には、サッカーアルゼンチン代表に J ヴィレッジを訪問してもらい、住民との交流を行い、復興のシンボルとして J ヴィレッジを発信する。</li> </ul>

自治体 (相手国等)	受けた支援の概要	取り組もうとする事業の概要
福島県二本松市 (クウェート)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災により、本市は、震度6弱を記録し、6900戸を超える家屋が被害を受けるとともに、東京電力福島第一原子力発電所事故で、放射性物質により農畜産物の出荷が制限されるなど様々な影響を受けた。</li> <li>・このような中、クウェート国から日本に対し、原油500万バレル(日本円にして400億円相当)の無償提供の申し出があり、日本赤十字社を介して、その代金相当額を支援いただき、そのうち、約155億円を福島県に充てていただいた。</li> <li>・救援金は、被災した中小企業に対する支援、サテライト校の生徒に対する支援、県外避難者への情報誌発行等の事業に活用されている。</li> <li>・二本松市の市民も、このようなクウェート国からの支援のおかげで、長引く避難生活を乗り切ることができ、帰還した市民の生活再建に役立てることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会前には、本市の市民とクウェートの国民が互いに理解を深められるよう、本市とクウェート国との間で交流を行っていく予定。今後、NOC・NPCに加え、同国の文化庁や在日大使館と連携しながら交流を図っていく。</li> <li>・大会直前には、市内中学生・高校生などによる応援メッセージボードなどの作成や、同国オリンピック・パラリンピアンとの事前合宿を受け入れる(クレー射撃等)。</li> <li>・この際、選手等を市内の小・中学校へ招いて、子どもたちとの交流の機会を設け、子どもたちに国際社会との関わりを持ってもらうとともに、本市の伝統文化に触れる機会を設け、本市をPRする。</li> <li>・大会中は市内でパブリックビューイングなどを開催し、応援する。</li> <li>・大会終了後は、二本松の菊人形の会場にクウェート国のブースを設け、歴史・観光スポットの紹介や、伝統衣装を展示することで、来場者にクウェート国の文化を伝える。</li> </ul>

この登録により、登録数：377件、自治体数：446、相手国・地域：153となる。  
(復興ありがとうホストタウンの登録数は、27件(+2件)となる。)